

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫

◆◆◆ No.0479 ◆◆◆

18/04/18

【ドル/円、108 円台乗せれば「世界が変わりそう」】

ドル/円は、3月26日安値の104.57円を年初来安値に小反発に転じている。これを「価格分布帯」の観点から見た場合、詳細は後述するが、反発するべくレベルで流れが変わったと言えるかも知れない。ただ、108円台乗せはそう簡単でなさそう。かなり手こずることが予想されるものの、仮に「しっかり」と乗せれば、そのまま110円台回復も視野に入るなど、相場の世界観が一変しても不思議はない。

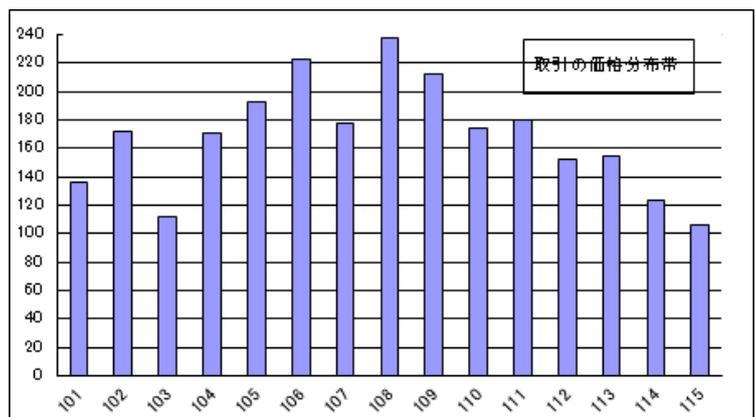
◎104円台でドルが下げ止まった流れは想定通り?底堅いが上値も重いか

過去にもレポートしているため詳細についてはバックナンバーに譲り割愛するが、「価格分布帯」において、過去の取引が多かった価格帯は「居心地の良いレベル」で抜けることは容易でない反面、取引が少なかった価格帯は「居心地が悪いレベル」で、アッサリとスルーしていくような傾向が見受けられる。

そんな基礎知識を頭に入れたうえで、最近の相場を振り返ると、先でも指摘した「3月26日安値の104.57円を年初来安値に小反発に転じ」てきた展開などは、パターン通りの値動きとも言えそうだ。これは「価格分布帯」で見た場合、変動相場制以降で取引日数238日を数える過去の最多取引価格帯である108円台を中心に、104-113円台と、かなり広範囲にわたって「取引の厚い」価格帯が位置しているため、104円台という「居心地の良い」、膠着性の強いレベルでドルは取り敢えず底入れしたことによる(詳細は下図参照。横軸が取引価格、縦軸は取引日数)。これを逆に言えば、仮に104円台をしっかりと下回った場合には、103円台では止まらず、その下のゾーン、101-102円台を目指す展開を否定出来なかったのかもしれない。

いずれにしても、今後の展開を考えた場合、足もとのようなドル戻り高歩調が続くとしても、本稿執筆時に推移している107円台をしっかりと超えられるかどうか最初のポイントとなろう。何故なら、前段で記述したように、確かに104-113円台と、かなり広範囲にわたって「取引の厚い」価格帯が位置しているものの、よくみると「104-106円台」と、「108-113円台」の2つのヤマにわかれているため、足もとの107円台はちょうど中間地点に当たるからだ。つまり、107円台をクリアに抜ければ、これまでの104-107円台から、108-113円台へとレベルが一気に変わる可能性も秘めている。

もっとも、別の言い方をすれば、108円台というのは、それだけ「高い壁」とも考えられ、容易に抜けていくことが難しいのかもしれない。しっかりと超えられなければ、104-107円台を中心とした一進一退が長期化する懸念もある。現状のようなドル高・円安の動きは、基本的に調整の動きと筆者は考えているため、やがてはドルの上値トライもどこかで時間切れとなり、再び下値を試すことになりかねないだろう。そうした一連の過程のなかで、103円台を割り込み101-102円台、もしくはさらなるドル下値を試すこともありそうだ。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

